

【コメント 2】

著者	西原 大輔
雑誌名	日本の伝統工芸再考 外からみた工芸の将来とその可能性
巻	27
ページ	139
発行年	2007-09-03
その他のタイトル	【Commentary 2】
URL	http://doi.org/10.15055/00002657

【コメント 2】

西原 大輔 NISHIHARA Daisuke

広島大学大学院教育学研究科

この論文は、岡倉天心の中国旅行を論じたものである。日本人の間で中国旅行が量的に盛んに行われるようになるのは、専ら 1910 年代からであり、この意味で 1893 年の天心による旅は、比較的初期のものと言える。そもそも、戊辰戦争に敗れた徳川側の賊軍には、明治以降の新たな活躍の場をアジアに求める傾向が強かった。画家のほとんどが旧幕府側の武士で占められていた日本美術院には、今日の平山郁夫に至るまで、特にその傾向が強い。岡倉天心もまたその一人である。本論文の筆者が論じるように、アジアを旅することで新たな視点を獲得し、これによって近代日本美術の形成に参与した岡倉天心の戦略は、彼の出自とも深く関係していると言うことができる。